



UIFA ニュース

発行 宇治市国際親善協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書課内

電話 0774-22-3141 (内線2057) FAX 20-8776

E-mail BCH04550@nifty.com ホームページ <http://homepage3.nifty.com/uifa/>

第 46 号

平成18年(2006年)2月

咸陽市公式訪問団が来宇

宇治市の友好都市である中国咸陽市から、徐 新栄咸陽市人民対外友好協会会長を団長とする公式訪問団一行7名が11月28日から12月1日の日程で来宇されました。今回は、宇治市での滞在が大変短い日程でしたが、源氏物語ミュージアム・対鳳庵・植物公園・折居清掃工場・平等院・万福寺・嵐山・金閣寺等を視察され、もう一つの友好都市である千葉県成田市へ向われました。



熱烈 咸陽市友好訪問団 歓迎

市役所表敬訪問



源氏物語ミュージアム



嵐山にて



徐訪問団長と久保田市長の握手



黄檗山万福寺

目次

咸陽市公式訪問団来宇	1
咸陽市公式訪問団体験記	2 - 3
トンプソンリバース大学体験記	4
雑感雑観	4

Report 咸陽市公式訪問団体験記

「咸陽市公式訪問団に参加して」 市民訪問団員 荒木裕美さん記

宇治市の平成17年度咸陽市公式訪問団員募集があり申し込んだ。9月13日参加者に対する説明会があり、久保田市長を団長に、池内議員を副団長、水谷議員を顧問とする訪問団が結成された。



◆10月13日(木)◆

9時から、宇治市役所一階市民ロビーで出発式が行われ、大勢の方々のご参加の中、川端副市長、長谷川副議長から激励のご挨拶を受け、久保田団長が「市民同士の友好関係を築いてきたい」と決意表明、バスで名古屋国際空港へ向った。

15時30分名古屋を離陸、綿菓子のような雲の上を17時45分上海に着陸。ここで皆の時計を1時間戻し、入国手続き、すぐに西安に向うはずが2時間遅れの19時40分上海を離陸した。

西安空港には咸陽市人民政府の人や、多くの方々が我々の到着を迎えてくれた。宿泊ホテルを変更して空港近くの航空大酒店で22時30分からの夕食となり、先ずは道中の無事に乾杯、部屋に入ったのは24時頃となった。寒さは感じなかった。

◆10月14日(金)◆

咸陽市での行事の初日である。9時にホテルを出て公式行事の第1番「咸陽—宇治第9回合同切手展」に参加した。これは、10月20日から予定していた切手展を訪問団一行の訪中に合わせて開幕してくれたもので、咸陽大劇院での10時の開幕式に一行が参加した。

咸陽—宇治の合同切手展は1998年から両市の切手愛好家が交流を続けていたもので、隔年 相互訪問の切手展を繰り返して、今年で9回目となる。開幕式には、咸陽市副市長、陝西省郵政局助理・巡視員、陝西省集郵協会副会長、陝西省集郵協会副秘書長、咸陽市集郵協会会長、宇治市長、日本郵趣協会宇治支部長らが参列、咸陽市副市長の歓迎の挨拶があり、訪問団を代表して私が挨拶をすることになった。19人の宇治市訪問団の参加を得た開幕式となりテープカットが行われたが、過去8回の合同切手展の中でも、これほど感激した切手展はなかった。展示作品をゆっくり見る間もなく、永寿県の植林地へ移動した。この植林地は1986年の咸陽市との友好都市盟約15周年を記念して「植林緑化事業」が提唱され、黄土高原に「宇治友好の森」を作ろうと広く市民の賛同を得て事業が始められたが、黄土高原の広さは約53万平方キロ、宇治市民の浄財をあてて

緑化運動に取り組んだとしても150ヘクタール(太陽ヶ丘運動公園の1.5倍)と点にしかならないと聞いている。これを面に拡大して行こう・・・と市民に呼びかけ、現地とも連携しながら取り組まれている。

植林地を見学し、記念植樹をしてきた。先に植えられた松も根付き大きくなっていて、今日、植えた松も大地に根を張り大きく成長することを祈りながら下山した。

永寿県植林地記念碑



永寿県で昼食の後、唐の第3代高宗と則天武后の墓、乾陵を見学した。則天武后が造営した唐代の陵の代表的なもので、規模の大きさや無字碑など有名である。

17時過ぎ、咸陽市人民政府を表敬訪問。玄関前には「熱烈歓迎日本宇治市友好代表訪問団咸陽」と大書した横断幕が張られる中、庁舎内に招き入れられた。「日本宇治市久保田 勇市長一行訪問咸陽」と書かれた部屋で交歓が行われた。

千 軍昌咸陽市長から歓迎挨拶と咸陽市の概要についての説明を受け、久保田市長は中国語で答礼して喝采を受けた。終始なごやかな中で両市の交流が発展するよう努力して行くことを誓い合った。咸陽市長は若く活動的に見えた。

また、今年9月に市長になったばかりとも話しておられた。場所を替えて歓迎レセプションが行われ、乾杯の連続。千市長と久保田市長の「北国の春」のデュエットなど飛び出して交流に花が咲いた。ホテルに帰ると咸陽市郵政局長と咸陽市集郵協会秘書長が訪ねて来てくれた。来年(2006年)「第10回日本宇治—中国咸陽合同切手展」を宇治市で開催することについて説明、来日いただくことを要請した。

◆ 10月15日 (土) ◆

西安へ出発。秦の始皇帝陵を取り巻く埴輪群、兵馬俑坑を見学した。2千年もの間、地中に埋もれていた人馬の群れが姿を現し、その広大さに驚くばかりである。まだ発掘されていない部分があり、その規模は計り知れないと言う。

兵馬俑坑第一発見者という楊志発氏にサインをもらい、3千年の歴史を持つ楊貴妃と玄宗皇帝の“愛の温泉地”華清池を訪れた。二人が入浴したとされる風呂場遺跡を見学した。

昼食後、碑林博物館を見学、漢・隋・唐・宗代に至る歴史の名筆を刻んだ石碑の図書館は1000～1200年の間に集められた石碑が保存されている。

明治・大正・昭和・平成など日本の年号の出展などについて学んだ。三蔵法師として知られる玄奘がインド各地を歩き、16年後、仏舎利、仏像、経典を持ち帰り、その経典の翻訳のため建立された大雁塔は7層からなり、最上階まで登ることができる。夕色が迫るころ、シルクロードの出発点、西安城壁に登った。暮色の中、自転車車で城壁を一周する人々を見た。

◆ 10月16日 (日) ◆

朝から咸陽博物館を見学した後、北京へ移動するため西安空港へ向った。12時50分北京に到着した。中華人民共和国の首都で千年の歴史がある。片側3車線の広い道路。近代的なビルが並ぶ政治の中心である。

昼食後、天安門を見学した。門の中央部に毛沢東の画像が掲げられ、テレビでおなじみの世界最大の広場、天安門広場が新中国を象徴するように存在を示していた。

◆ 10月17日 (月) ◆

故宮(紫禁城)へ入った。1987年、世界文化遺産に指定されている。正門の午門、太和門、太和殿、中和殿、保和殿と行けども行けども出口がない。宝物館でも、古い宝物が展示されていて圧倒された。

北京の西北郊外約50Km天寿山麓にある明代の皇帝陵墓で13人の皇帝と23人の皇后、1人の貴妃の陵墓が集まる十三陵のうち、定陵の地下宮殿を見学した。前殿、中殿、後殿と左右にある横殿など、この地下宮殿が建築された経緯など説明を受け、昔の人の知恵に改めて感心した。

万里の長城は、北方の騎馬民族の侵入に対して作られた城壁で、秦の始皇帝がつなぎあわせて作られたと説明があったが、城壁を合わせると長さ5万Kmになるという。八達嶺などは明代のもので近年修復されたが、人類史上最大の建築として世界文化遺産に登録されている。

◆ 10月18日 (火) ◆

11時15分上海に到着した。上海市街は近代的な高層ビルが林立し、世界各国の企業が集まる商工業都市として発展していて、北の政治の中心 北京、南の商工業都市 上海と二つの都市を同時に見てきた。

上海の夜景はすばらしく、折からアジア最大のテレビ塔の上に満月が映えて美しい夜景に花を添えていた。

◆ 10月19日 (水) ◆

ホテルを出発して蘇州まで約2時間、山も見えない。中国の広さを実感させられた。虎丘の千人石と呼ばれる一枚岩や剣が刻み込んだという試剣石などを見ながら、水の都 蘇州の寒山寺に入った。寒山寺は詩人 張 継の「楓橋夜泊」が有名で5度にわたって焼失と再建を繰り返してきたと聞く。

拙政園は中国 四大名園の一つで、東園、中園、西園の三区画からなり、水池・築山・建築の三者調和を主眼に建てられている。

◆ 10月20日 (木) ◆

最後のショッピングの後、上海空港から全員無事に閑空に到着。18時30分久保田市長さんたちのお出迎えを受けて宇治市役所に帰ってきた。出迎えの家族にもホッと安心の顔が見られた。

このように7泊8日の旅は宇治市－咸陽市との友好親善の訪問活動に始まり、十分にその役目を果たした。咸陽市民の素朴な親しみの持てる人間関係は、宇治市民にとって、将来に互って続けられ、花を咲かすであろうと感じた。

そして、4千年の歴史を誇る中国の文化と大地、一転して上海から見られる近代的な国際都市の姿、古いものと新しいものが自然の中に混在する中国の大きさに驚かされ、感動を覚えた旅行だった。

訪問旅行を企画された宇治市ご当局、宇治市国際親善協会、そして咸陽市人民政府の皆さんに感謝を申し上げ、楽しい旅にしていた訪問団ご一行の皆さんに感謝を申し上げ、加えてこれからの末永い交流をお願いして旅行記としたい。



咸陽市役所前で

トンプソンリバーズ大学留学体験記

私は 2005 年の 4 月末から 8 月までの間、市民留学生としてカナダ・カムループス市のトンプソンリバーズ大学で、勉強する機会をいただきました。

カラッとした気候に恵まれた夏のカムループスは、大変のどかな町です。住む人たちはとても素朴で、なおかつ親切でした。大学へはバスで通学していたのですが、バスを待つ間一人でいると、誰かに話しかけられたりすることもしばしばありました。天気のことを話したり、日本のことを聞かれたり、人なつこい人達にはじめは私も驚きましたが、そういった一つ一つの出会いを嬉しく思うようになり、カナダ人ならではのコミュニケーションを楽しんでいました。

大学の ESL クラスには様々な国からの留学生がいて、授業の合間にも挨拶をしたり、カフェで話したり、充実した毎日を過ごすことができました。授業では、教科書はもちろんのこと、ディスカッションしたり、クイズや状況を設定して実践的に会話する内容があったりと、興味を持って取り組めるものが多かったと思います。諸外国のクラスメイトの文化に私が驚いたり、その反対のこともあったり、一回一回の授業でいろんな発見をしながら、語学の勉強だけではなくクラスメイトの国のことや、異なった視点からの考え方も学ぶことができました。また、休日にクラスメイトの寮に集まって、互いの国の料理をふるまい合ったり、言葉を超えたコミュニケーションを持つこともできました。その時、私ともう一人の日本人の友人とでお好み焼きを作りましたが、カナダ人の先生を含め大好評でした。些細なことかもしれませんが、日本のことを新たに知ってもらえたことが嬉しくなり、こういった小さな場面も、国と国との差異を越える一歩であるように感じました。友人たちとは、メールのやりとりをするなどして現在も友好を深めています。

大学でたくさんの経験と勉強を重ね、良き友と良き思い出をいっぱい作れた 1 学期間はあっという間でした。留学前に行きたいと懇願していた各地の美術館も、訪れた町ごとに見てまわり、カナダの独自の芸術を通して、カナダ文化への興味も一層深まりました。宇治市から訪問された中学生に付

平成 17 年度留学生 松田万実さん記

き添って観光した折、カムループス市の方々と話をして、いろいろなカムループスのことについて教えていただき、少し知っていただけだった歴史や土地のことを改めて知ることもできました。宇治からカムループスを訪れたたくさんの方が、また再び行きたい〜とおっしゃる思いが、今はとてもよくわかる気がします。



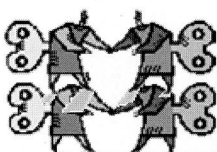
料理を持ち寄って
(左から 2 番目)



カムループスは宇治と同じように川が流れていて、トンプソンリバーというその美しい川のそばにウジ・パークという、両市の友好の記念の公園があります。そこで結婚式をするカップルも多く、8 月には私の友人の日本人女性と、カナダ人の男性もそこで結婚式をあげました。私も友人として式に参列しましたが、宇治からの留学生として、この公園がそういった門出の場になっていることを、とても誇らしく思いました。

留学中、どこに行っても、日本のことや宇治のことについて知ってもらいたいと話してきました。逆にカナダやカムループス、諸外国の話を聞かせてもらい知った、文化の違いもありました。そして、国は違えど同じ人間として共通する痛みや喜びがあることを、学ばせていただきました。すべての出会いと、今回の留学の機会をいただけたことに感謝の思いでいっぱいです。

この経験を生かし、今後も新しい気持ちで、国際交流の場に積極的に参加していきたいと思います。



バーベキュー (左から 4 番目)



雑感雑観

昨秋、国際ソロブチミスト宇治で講演会を開催し、テーマは「地球温暖化を考える」—環境保全における女性の役割—としました。その準備を進めて行く過程で、私達が日常語として使っている「もったいない」という言葉が、2004 年ノーベル平和賞を受賞したケニア共和国環境副大臣のワニガリ・マータイさんという女性の手で、「地球環境を守る世界共通語」として、世界に向けて広げられていることを知りました。彼女が「もったいない」の意味を知った時、長年環境問題に取り組む中で掲げてきた合言葉「三つの R」、リデュース(削減)、リユース(再使用)、リサイクル(再利用)を、たった一言で言い表している大切な言葉であると直感されたそうです。

たまたまソロブチミストでも、今期の活動の指針を 15 ヶ条の行動綱領として打ち出し、その一条に「もったいないを常に心がける女性であること」があったので、感動と共感度はひとしおのものがありました。物があふれ、使い捨てることを何とも思わない人々が多いこの世の中、いま一度この言葉の大切さを提唱し、実生活に生かせるよう啓蒙して行きたいと思います。

本題の講演会では、京都新聞社論説委員の寺島晃氏を講師に、①環境にやさしい生活をしているかどうか、ライフスタイルのチェック、②地球温暖化がもたらす影響、それを防ぐための CO2 排出量の削減法、③クール、ウォームビズやロハスの効果等について、実りの多い勉強会でした。(小島)